

丸の内交響楽団

Marunouchi Symphony Orchestra

第 1939 回

トヨタコミュニティコンサート
TOYOTA COMMUNITY CONCERT

創団 35周年記念 第31回演奏会



J.シベリウス／交響曲第2番ニ長調 作品43

L.ドリーブ／バレエ音楽「コッペリア」

J.シュトラウス二世／皇帝円舞曲、美しき青きドナウ

開演前にプレコンサート、指揮 和田一樹によるプレトークがあります。

2025 9/27(土) すみだトリフォニーホール
(錦糸町)

主催：丸の内交響楽団 共催：東京都トヨタ販売会社グループ・トヨタ自動車株式会社
協力：公益社団法人 日本アマチュアオーケストラ連盟 ほか



arts in hearts
TOYOTA

トヨタコミュニティコンサート

トヨタは「いい町・いい社会」づくりをめざし、
アマチュアオーケストラ活動を1981年から応援しています。



TOYOTA_MECENAT

ご挨拶



この度は、創団35周年記念第31回演奏会第1939回トヨタコミュニティコンサートにご来場頂き誠にありがとうございます。

落ち着いた世の中ではございますが、ようやく、通常の文化活動を皆さまにお届けできるようになってまいりました。今年で創団35年を迎えます当団は、今や1700席を超えるお客様にご来場頂けるようになりました。

振り返ってみますと、団としても決して安泰な時期が続いたわけではございませんが、この間、多くの指揮者、指導者、演奏家の方々の丁寧な指導の元に様々な経験を、積んでまいりました。秋の定期演奏会と併せて、2002年には、ニューヨークのリンカーンセンターでの演奏会、また、ラ・フォル・ジュルネTOKYO、世田谷区代沢での芸術祭など、ともに初年度から本年度で21年連続参加させて頂き、最近4年間では、1月の軽井沢大賀ホールでのニューイヤーコンサートを、本年6月には能登半島地震の応援コンサートなど、幅広く活動を継続してできていますことは、なによりも皆様のご協力、ご理解あつてのことと心より感謝しております。

さて、本日は昨年に引き続いて指揮者に和田一樹氏、ゲストコンサートマスターに平山慎一郎氏をお迎えし、前半は、ハーブに幅広く活躍されておられます信国恵子氏と共に、本年に生誕200年を迎えましたヨハン・シュトラウス2世によるワルツを、そしてバレエ音楽「 Coppélia」を、後半は皆様がよく耳にされることの多いシベリウスの交響曲第2番をお楽しみ頂きます。

音楽は、言葉を超えて心を通わせる力があります。それは時に、言葉では表現しきれない感情や思いを伝える唯一の手段でもあります。私たちの演奏会は、そのような音楽の感性を、ご来場のお客様、参加者（演奏者・スタッフなど）と一緒に体感して頂ける場でもありたいと心から願っています。

併せて、今後の地域との繋がり、文化の発信の模索から地域社会の一員として活動する私たちアマチュアオーケストラとして、多様性（ダイバーシティ）の実現、そして多くの方々との心つながりを目指して、世界の子供にもワクチンを日本委員会（ペットボトルキャップの収集）そして、（特非）国境なき子どもたちのご協力を得て、皆様と共に考えるきっかけとさせて頂きました。ロビーに展示がございますので、ぜひご覧頂ければと思います。

最後に、ご来場の全てのお客様、墨田区障害者団体連合、墨田区社会福祉協議会、（社福）日本点字図書館、Palabra（株）、世田谷区代沢地区社会福祉協議会をはじめ、ほか多くの団体の方々、併せて、東京都トヨタ販売会社グループ、トヨタ自動車株式会社、（公社）日本アマチュアオーケストラ連盟ほか、多くの皆様に、ご協力、ご来場を賜りました。全ての皆様と関係各位に、心よりお礼申し上げます。

残暑のひと時を、心休まる時間として、楽しんで頂ければ幸いです。

丸の内交響楽団 代表 下里 猛雅

指揮者

Conductor



和田 一樹 Kazuki WADA

東京都中野区出身。

尚美学園大学作曲コース、東京音楽大学指揮科を卒業。2009年オーケストラ・アンサンブル金沢主催第1回井上道義指揮講習会にて優秀賞受賞、2011年ブラジルロンドリーナ音楽祭にて優秀賞受賞。2015年ルーマニアで開催された第6回ブカレスト国際指揮者コンクールにて準優勝。2017年にはヤシ・モルドヴァ・フィルハーモニー管弦楽団を指揮しヨーロッパデビュー。オーケストラと聴衆から熱狂的に支持され、楽団の総監督より「最年少最優秀客演指揮者」の称号を受けて以降、毎シーズンの客演を続けている。ドラマ「のだめカンタービレ」、映画「マエストロ!」「くちびるに歌を」「モヒカン故郷に帰る」において指揮指導を担当。CMや劇伴などレコーディング多数。また、京王電鉄・京王ライナーオリジナルBGMを作曲。京王音楽祭にて東京フィルハーモニー交響楽団の演奏で初演された。

これまでに、東京都交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、パシフィックフィルハーモニア東京、東京佼成ウインドオーケストラ、群馬交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、京都市交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ、広島交響楽団、九州交響楽団、ロンドリーナフェスティバルオーケストラ、ジョルジュ・エネスク・フィルハーモニー管弦楽団、ヤシ・モルドヴァ・フィルハーモニー管弦楽団などと共演、国内外で指揮活動を展開している。

ゲストコンサートマスター / ヴァイオリン

Guest Concert Master / Violin



平山 慎一郎 Shinichiro HIRAYAMA

9歳で渡米、オレゴン州の小中学校を経てミシガン州のインターローケン・アーツ・アカデミーを経てニューヨークのマネス音楽大学にて学ぶ。1998年秋に一時帰国。2001年ミュージック・マスターズ・コースinかずさ（MMCK）より招待を受け参加。2004年および2005年スイスのルツェルン音楽祭アカデミー（音楽監督P.ブーレーズ）より招待を受け出演。国内オーケストラにてゲスト・コンサートマスターをはじめ、首席やファーストプレイヤーとして活動中。

ソリストとしてはブラームス、チャイコフスキーなどの協奏曲をはじめ、ベルク、ストラヴィンスキーなど現代の協奏曲も演奏し、好評を博す。

2020年にオーケストラ曲を解説するチャンネルを立ち上げ、現在も進行中。

2023年8月より東京21世紀管弦楽団コンサートマスターに就任。

これまでにサリー・トーマス、小林健次両氏に師事。

使用楽器は1744年製グアルネリウス・デル・ジェス。



配信中のチャンネル / オーケストラ・レッスン <https://www.youtube.com/@orchestralesson8122>

曲目紹介

今年生誕200年を迎えたヨハン・シュトラウス2世は、早世の父ヨハン・シュトラウス1世の、ヴァイオリンを演奏しながら指揮をするスタイルと、表現豊かな作風で、オーストリア国民の琴線に触れる音楽を作り、『ワルツ王』、『ウィーンのもう一人の皇帝』とまで言われました。現在でもヨハン・シュトラウスの音楽は世界中で愛され続け、毎年ウィーンフィルのニューイヤーコンサートは、各国に衛星中継され元旦の風物詩になっています。アンコールで有名な「ラデッキー行進曲」は父ヨハン・シュトラウス1世の作品です。

■ J.シュトラウス2世 皇帝円舞曲 作品437

ドイツとオーストリアの皇帝が臨席する演奏会で両国の親善を祝う為に作曲を依頼され、曲名は『手に手をとって』と名付けられました。行進曲風の序奏から続いて4つのワルツが奏され、一転して急激な結びに移り、力強く終わります。

■ J.シュトラウス2世 美しき青きドナウ 作品314

プロイセン王国との戦争に敗れ、国の重苦しい雰囲気を払拭するために、『ウィーン男性合唱団』から合唱付きのワルツとして作曲を依頼されました。ドナウ川のとうとうと流れとウィーンの心が、序奏と5つのワルツと終曲で表現されています。「第2の国歌」と呼ばれるほどに愛され、人々の誇りとなっている名曲です。

(打楽器 村岡 伸昭)

■ L.ドリーブ バレエ音楽「コッペリア」

フランス・バレエ音楽の父といわれる作曲家 レオ・ドリーブが1867年に発表した「コッペリア」は、最後のロマンティック・バレエとして、今も広く愛されています。舞台はポーランドの小さな農村。コッペリウスが作った美しい機械人形「コッペリア」が窓辺にたたずむのを見て、青年フランツは人形とは知らずに心を奪われてしまいますが、恋人スワニルダの機転と活躍により、最後は和解と祝祭で盛り上がり幕を閉じます。

♪前奏曲とマズルカ♪

若い男女のにぎやかなポーランドの民族舞曲。華やかに弾むリズムをお楽しみください。

♪ワルツ♪

スワニルダが窓辺の「コッペリア」に挨拶しようとする場面を、穏やかで親しみやすい音楽がやさしく包み込みます。

♪チャルダッシュ♪

チャルダッシュとは、ハンガリーの民族舞曲のことです。力強く情熱的に、物語は、盛り上がります。

♪麦の穂のバラードとスラブの主題による変奏曲♪

ヴァイオリンソロの哀愁漂う響きが、物語に深みを添えます。ゆったりとしたバラードが終わると、変奏曲が進むにつれ、民族色豊かな美しさがクライマックスを彩ります。

(ヴァイオリン 熊崎 彩、中村 賀代)

■ J.シベリウス 交響曲第2番

フィンランドを代表する作曲家ジャン・シベリウスが1901年から翌年にかけて作曲した交響曲第2番は、北欧の自然と心の奥底を映すような音楽です。雄大な自然や澄んだ空気を愛した彼は、その息吹を音楽に映し出し、この曲も「フィンランドの大地そのものが響いている」と評されます。

第1楽章は、春の訪れを思わせる穏やかな始まり。弦のさざ波のような音型に乗って、木管が軽やかに歌い出します。自然の息吹とほのかな緊張感が交錯し、まるで森が目覚める瞬間を描いているかのようです。

第2楽章は、深い森の中に迷い込んだような神秘的な雰囲気。低弦のピツィカートに乗ってファゴットが憂いを帯びた旋律を奏で、やがて金管が重厚に響き渡ります。死や救済といったテーマが静かに語られます。

第3楽章は、荒々しいスケルツォと静かなトリオが交互に現れる劇的な構成。弦楽器が風のように駆け抜け、オーボエがしみじみとした旋律を奏でると、まるで嵐の中に差し込む一筋の光のような安らぎが訪れます。

休む間もなく続く第4楽章では、勝利と希望に満ちた壮大なフィナーレが繰り広げられます。弦楽器が輝かしい旋律を奏で、金管が高らかに応えます。過去の葛藤を乗り越え、光へと昇華していくような音楽は、聴く人の心を力強く揺さぶります。

本日の演奏でも自然の息吹や、人の感情が音楽で描かれる驚きと感動を味わっていただけることでしょう。シベリウスの音の森へ、どうぞ耳を澄ませてお入りください。

(ファゴット 松本 理恵)

TOYOTA

カタチのないものが、まちの未来をかたちづくる。

音楽には、人々の心を動かす力があります。
何気ない毎日を輝かせ、豊かにする、希望の光があります。
私たちは、そんな音楽の力を信じて、
全国各地でコミュニティコンサートを開催しています。
音楽を通じて、地域の人々に笑顔と幸せを届けるために。
その先に、サスティナブルな社会の実現をめざして。



Able Art × TOYOTA

トヨタは、すべての人が参加できる社会を目指し、1995年よりエイブル・アートを応援しています。
エイブルアート・カンパニーは、障がいのある人がアートを仕事にするための環境（仕組み）づくりをしています。
artist: 上田 匡志 / 川邊 紘子 / 神山 亜津美 / 佐々木 和徳 / 外尾 友樹 / Máscara Contra Máscara / 山崎 健司

東京都トヨタ販売会社グループ

トヨタモビリティ東京	ネットトヨタ東都
トヨタS&D西東京	トヨタS&Dフリート西東京
トヨタモビリティパーツ	トヨタホーム東京
トヨタモビリティサービス	トヨタS&Dレンタシェア西東京
トヨタL&F東京	トヨタユーゼック

ノアG 車いす仕様車
“タイプI（車いす1名仕様）”



すべての人に移動の自由と楽しさを